

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム せせらぎの里	評価実施年月日	平成20年12月2日
評価実施構成員氏名	佐々木 真貴子 ・ 北濱 史大 ・ 牧野 里美 ・ 久保田 かおる ・ 金賀 朋子 ・ 工藤 和子 ・ 神 淑江 ・ 星野 一人		
記録者氏名	星野 一人	記録年月日	平成20年12月10日

北 海 道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>基本理念、ケア理念を掲げ、スタッフルームに掲示している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>常に理念に沿ったケアの提供に心がけている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には入居前、入居時に説明し面会時の会話の中でもお話、情報交換をしている。また地域の方々には、運営推進会議の実施や地域行事への参加、レクリエーションなどを通じ説明している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>ホーム近隣の散歩や、レクリエーションなど近隣住民と接する機会がある時は、こちらからの挨拶など欠かさず行っているが、気軽に立ち寄ってもらえるつきあいはできていない。</p>	○	<p>普段の暮らしの中で、近隣の人たちへの声かけやきっかけ作りを行えるよう、また隣近所の人々が立ち寄ったり、遊びに来ていただけるようなホームを目指していきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域行事への参加やレクリエーションなどを通じて、地元の人々と交流することはあるが、自治会、老人会への実質的な活動への参加は少ない。</p>	○	<p>地域住民の一員として、町内会、自治会の集まりなどに出席できないか検討する。清掃活動や行事など、地域活動の情報の収集を行い、それらに参加するなどして接点を持てるようにしていきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の高齢者等の暮らしに役立つことについては、運営推進会議などで話し合われているが、具体的な取り組みには至っていない。</p>	○	<p>介護相談、介護予防教室の開催などアイデアはあるが、できるところから活動を起こしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価の意義や目的など全職員で理解し、自己評価に取り組んだが、具体的な改善への取り組みまでは至っていない。</p>	○	<p>今回の評価を受け、職員全員で具体的な改善への取り組みを行っていくこととしたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議では、入居者の状況やサービスの実際について、評価への取り組み状況の報告や話し合いを行い、サービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>制度、運営上の問題など、直接担当者と連絡を取り合う中で、アドバイスをいただき、サービスの質の向上に努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修などで学ぶ機会があり、必要な人にはそれらを活用できるように支援を行っている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待はしないということは職員全体に浸透している。常に利用者本位の考え方に基づいて支援を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約を結ぶ際、解約する際、契約書・重要事項説明書を用いて、ご家族の納得がいくまで十分話し合い、理解・納得を得ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に苦情箱や廊下に苦情申立先を明示したパネルを掲示している。また日常会話の中で管理者や職員へ意見、不満、苦情を言える関係作りに努め、運営に反映させている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に一度通信物を通じて生活状況の報告を行っており、金銭管理においても、通信物と一緒に領収書のコピーや帳票を送付している。また健康状況に異変があったとき、医師より説明があったときは、速やかにご家族へ報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に苦情箱や廊下に苦情申立先を明示したパネルを掲示しており、ご家族からの意見は常時受け付けられる体制にあり、口頭の意見に関しても、即運営に反映できるように努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議を通じて、意見や提案を聞く機会を設けているほか、常日頃意見を出し合え、それを反映できる雰囲気作りに努めている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯職員を確保し、勤務の調整に努めている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者への影響を第一に考え、離職を必要最小限に抑える努力と、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>法人内外の研修を受ける機会を確保しており、また働きながらのトレーニング(入社時の研修や、職員間での話し合いや相談する機会を含む)していくことを進めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>地域の同業者と交流する機会には積極的に参加し、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>運営者、管理者は、職員が一人で悩むことがないように、常に職員とのコミュニケーションを重視し、ストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>各自が向上心を持って働けるよう、情報交換ができるようになっており、生き生きと働ける環境づくりに努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>事前に生活状況を把握するように努め、本人の入居するに至っての状況・背景を理解し、本人のニーズ・課題・不安などを受け止めるように努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を事前に受け止め、明確にしたうえで、ホーム側の意向を説明し、理解いただいた上で入居の手続きを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在のニーズが、早急なものかそうでないかを見極め、その時の段階で他のサービスが必要ならば、情報提供・紹介をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学を行い、雰囲気を体験して頂けるようお勧めしており、入居後は一日の様子を細かく記録し、職員間で情報を共有し、ご家族にも報告している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び、支えあう関係を築けることがグループホームの利点であると考え、入居者、職員ともに笑顔を共有できるホームを目指している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、面会時には近況報告や情報交換。本人に状態の変化が見られたときは速やかに連絡をとり、経過報告をしている。その中で職員と本人との関わりを見ていただき、意見をいただいている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	両者の関係を理解し、思いを聞いた上で、それぞれに伝え、安心したよりよい関係をもてるように努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、またその人らしく継続できる習慣は、できる限り尊重した支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係は把握しており、個々が孤立するなく関わり合いができるよう、職員が間に入り、軽作業なども一緒に行っている。また食卓の席順も利用者同士の関係性を考慮し配置し、必要に応じて席替えも行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、ご家族や利用者の不安が少しでも軽減できるよう、面会や相談を行う体制を整えており、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・ご家族の希望、意向の把握に努めている。希望はできる限り実現できるように配慮し、その人らしい生活がおくれるように努めている。また実現が困難な方には、ご家族にそれまでの状況、暮らし方を確認した上で、本人本位に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活状況を聞き取るなど情報収集した上で、毎日の行動、会話の中からのような生活をしてきたのかを聞き、記録に残すことで、職員間の情報共有やサービス利用の経過などの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別のアセスメントシートを使って、生活パターン、有する力などの現状把握や、日々の心身状態は生活記録、連絡ノートなどを活用し、全職員が総合的に現状を把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	既存のもの、ホームオリジナルのアセスメントシートを使い、課題とケアのあり方についてユニット会議などで意見交換を行い介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>37 ○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>一定の期間に応じて、現状に即した介護計画の見直しや、本人や家族の状況に応じて、話し合いにより臨機応変な見直しも図り、新たな計画を作成している。</p>		
<p>38 ○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>漫然と記入するのではなく、本人とケアの個別状況やケアをしながらの職員の気づきなどを記入し、情報の共有しながら実践や介護計画の見直しに活用している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>39 ○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>本人、家族の状況に応じて、通院や送迎必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう、特に医療面では連携体制を活かして、本人の負担となる受診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活が継続できるよう支援している。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>40 ○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>本人が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員や町内会と意見交換ができる機会を設けている。</p>		
<p>41 ○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>本人の意向や必要性において、訪問理美容サービスを利用するなど、地域の他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
<p>42 ○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センターに参加して頂いてることで関係を強化し、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医との連携をはかりながらの支援や、定期的に訪問する医師や看護師との関係を築き、適切な医療を受けられるように支援をしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい医師に訪問診療を依頼し、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう、診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言、及び緊急時対応のアドバイスも頂いている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員は確保していないが、定期的に訪問いただく看護師とは、気軽に相談できる関係ができており、医療機関との連携体制も確保されている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院によるダメージを極力防ぐために医師と話す機会を持ち、ホーム内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるように病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した際はできるだけ早い時期に主治医、ご家族へ相談をしている。ご家族には現状をこまめに伝え、今後の方針について話し合いをしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう取り組んでおり、急変した場合はすぐ対応していただけるよう医療機関とも連携をはかり対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>退去時には、施設長、管理者、ご家族との話し合いが行われ、本人の状態やご家族の希望を十分に確認し、本人にあった環境と考えられるサービスへと移行している。また必要に応じて、次のサービス先への連絡・調整も行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような声かけや対応はしないよう、常に正しい言葉使いを徹底している。また記録など個人情報の管理においても同様である。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員側が決めたことを押しつけるようなことはせず、本人が気持ちを表せる場面を多く作り、一人ひとりの能力に合わせ選択できる働きかけを行っている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な一日の流れは持っているが、一人ひとりのペースを大切にし、希望にそえるよう努力している。また体調や精神的にすぐれないときは、無理にサービス提供を行わないようにしている。買物や散歩など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>朝の着替えは、基本的に本人の意向により決めているが、自己決定がしにくい利用者には職員が考えて、本人の気持ちにそった支援を心がけている。また現在訪問理美容サービスを利用しているが、本人が望む店があれば、対応していく体制もある。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニュー作成時に利用者からのリクエストを聞き、職員と一緒に準備や食事、片付けなどを行っており、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気作りに努めており、また外出レクリエーション時に地域の飲食店に出かけ食事会を実施している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好品を理解した上で、本人の様子や時間をみながら、楽しめるよう支援している。お酒やたばこも他の利用者の迷惑にならないよう配慮している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェックを行うことで、一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意、便意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの都合を希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。衛生上の問題により入浴をおすすめする場合は、きちんとご説明し、理解いただけない場合は無理に支援しないよう心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中での活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくりと休息がとれるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご本人の生活歴を把握するのはもちろんのこと、現在のADLの状況も考えて、楽しめるよう努めています。食事、掃除、洗濯などの軽作業で利用者の経験や知恵を発揮する場面をつくり、それぞれの役割作りや、楽しみごと、気晴らしという面では外出レクリエーションの実施にも力を入れている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の協力を得て少額のお金を持っている利用者もおり、一緒に買い物に出かけた際には、お金を手渡し、自分で支払っていただくなど、社会性の維持につなげている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう、散歩や買い物、ドライブなどに出かけ、地域社会に属している意識を持っていただけるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出レクリエーションを実施しており、いろいろな場所に出かけられる楽しみを持っていただけるよう支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から訴えがあれば、電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問できるような雰囲気作りを心がけている。訪問時間は特に定めておらず、ご家族の都合のいい時間帯に、いつでも訪ねて来ていただけるよう工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、会議や日々の申し送りなどで、その日のケアを振り返るようにしており、自覚しない身体拘束が行われていないかなども確認している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間時防犯上の理由以外では鍵のかけないケアを実践している。利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒についていくなど、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に、利用者がどこに居るのかをさりげなく把握しながら見守り、職員間で伝え合い、安全に生活できるように努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険をされるもの全てを取り除くようなことはなく、利用者の状態変化によっては声かけ、見守りをしていくなどケースに応じた対応をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでおり、万が一の事故が発生した場合には、速やかに家族への報告を行い、事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について全職員で検討している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成し見やすい場所に掲示し、全職員目を通している。	○	緊急マニュアルを読んで学習はしているが、訓練は定期的に行っていないので、全ての職員が実技を含んだ勉強と、体験・体得・習得できるように機会を設けたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時地域の人々の協力を得られるような働きかけは、まだ不十分と感じている。	○	災害を想定した実践的な訓練を職員と利用者が一緒になり取り組んでいきたい。また地域の協力体制については町内会にお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援するためには、家族などの納得と理解が不可欠と考え、一人ひとりに予測されるリスクの提示と対処方法を、事前に家族などと話し合った上で、職員間で対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の申し送りや、連絡ノート活用により、利用者の情報は職員全員で共有し、少しでも体調不良のサインが見られたときは、即バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。また状況によっては医療受診にもつなげるなどの対応にあたっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに処方箋をファイルし、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている。薬の処方や用量が変更されたときは、申し送り、連絡ノートで全職員に周知し、本人の状況変化が見られるときは、医療との連携が図れるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一人ひとりの1日の暮らしの中で、食事、排泄、活動状態などを見直し、薬に頼ることなく自然排便を促す工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨きの声かけや、本人の力に応じて職員が見守りや介助、義歯の洗浄を行っている。また定期的に訪問歯科を利用し口腔内の清潔保持に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量や水分摂取量を毎日生活記録に記入し、職員で情報を共有している。水分摂取の少ない利用者に対しては職員が隣の席に座って一緒に飲んだり、少量ずつに分けて摂取していただくなど工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりえる感染症について、マニュアルを作成し、全職員で学習して予防・対策に努めている。また利用者及び家族に同意いただき、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒予防のためにまな板や食器かご、ふきんなどは毎日漂白し清潔を心がけている。また冷蔵庫も定期的に点検掃除をし、食材の残りは鮮度や状態に注意して調理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入り口に手作りの案内板を掲示し、イス、テーブル、植物などをおいて、アットホームな雰囲気を感じていただけるよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	茶碗の洗う音や、調理中において、心地よい音楽を流すなど、また季節感を取り入れた飾りなどに工夫をこらし、ほどよい生活感と居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアのイス、テーブルは4～5人で過ごせる場所。ソファは1～3人で過ごせる場所など幾つかの空間ができるように設置しており、それぞれが思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は入居時に本人、家族と相談し、以前から使っている馴染みの物を持ち込んでいただき、これまでの生活と変わらぬ環境作りをしている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	フロアの温度調節は、利用者の発汗や冷えなどに応じて調節するようにしており、外気との温度差がある時は温度・湿度計をチェックしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内には安全かつ自立した生活が送れるよう、必要部に手すりを設置しており、また過剰な設備を通して自立生活を制限することのないよう工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていただけるかを考え、状況にあわせて環境整備に努めている。状態が変わり新たに混乱や失敗が生じたときは、その都度職員で話し合い、本人の不安材料を取り除き自立して暮らせるように工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りにはベンチやプランターなどを設置し、利用者が楽しんだり活動できるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

外出レクリエーション(1ヶ月に2~3回)を企画実施することにより、利用者の日常生活意欲の活性化と、地域住民との関わり合いの機会を作っている。また利用者職員が喜び(感情)を共有することにより、より深い信頼関係の構築を目指している。その人のあるがままを受け入れ、状態や体調に合わせたケアを実践している。